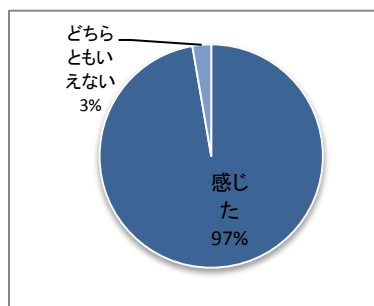


平成27年度「障がい者への合理的配慮について理解する」職員研修 アンケート集計結果

開催日時	① 平成27年11月16日 10:00～
	② 平成27年11月16日 13:30～
	③ 平成27年11月17日 10:00～
	④ 平成27年11月17日 13:30～
	⑤ 平成27年11月26日 10:00～
	⑥ 平成27年11月26日 13:30～

1 本研修会は「必要」と感じるものでしたか？

	感じた	どちらともいえない	感じなかった
①	39	1	0
②	37	3	0
③	43	0	0
④	36	2	0
⑤	35	0	0
⑥	26	0	0
合計	216	6	0

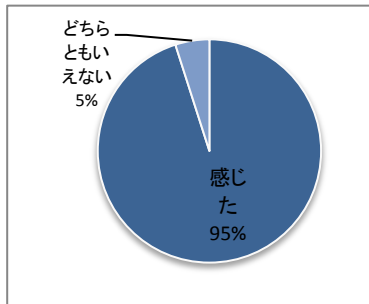


(回答の理由)

- 説明の焦点が明確ではない。(特に冒頭の第 I 部)
- 何故、さつき会の方の講話なのか、本条例の説明をするのには分かりづらい。
- 困りの現実が見えやすくなる心配りが必要なのでは？(差別の現実や配慮が必要な内容が分かりにくい。)
- 普通の話題でしかないと思えた。(2)
- あまりためになる話ではなかった。(2)
- 聞いただけだったので。(2)
- ぱれっとの方の資料の内容は良かったので、もう少し聞きたかった。(2)
- 障害内容や実情を知る上では必要であると感じた。しかし時間中にする内容としてはどうなのかよく分からない。(1)
- 職員全員が同じ認識が必要。障がいについて想像はできるが、的はずれになったら意味がない(1)
- 我々は、実情を知らなかったで、このような話を聞き、知ってもらいたい。(1)
- 貴重な体験談を聞かせていただき、当事者の方の苦しさやイライラ感を具体的にイメージできた。
- 高次脳機能障がいは、誰にでもある日当然起こり得る問題だと思うから。(1)
- 差別や偏見の意識を払拭し、市職員として、全ての市民を想定し、全ての市民の役に立てることを実践するため。(1)
- この条例とともに、やさしい別府市又は住みたい都市であればと感じている。
- 大久保さんの研修参加することが重要、同感である。(1)
- 実際に障がいのある人の話を聞く機会がないので話が聞けて良かった。手話、習ってみようかと思っている。(1)
- 障がい者の抱える問題をじかに聞くことができた。(1)
- 高橋さんの視覚障がい者のリアルな声を聞かせて頂いて大変良い機会になった。(1)

2 研修の内容を理解できましたか？

	感じた	どちらともいえない	理解できなかった
①	38	2	0
②	37	3	0
③	42	1	0
④	36	2	0
⑤	33	3	0
⑥	26	0	0
合計	212	11	0



(回答の理由)

- 講話の話が長すぎて、内容がよく分からなかった。(2)
- 複雑な事情があり、どこまで踏み込めるのかの間合いが容易ではない。(2)
- 時間に対してメニューが多い。(2)
- 話を聞いたので理屈としては理解できたが、実際に理解できたかは疑問(2)
- 聞いた内容は理解したつもりだが、実際の中で生かせるかどうか。(2)
- 第3セクションの障がいの特性は、もう少しパワーポイント等を使用して説明してもらえると分かりやすい。
- 実態は分かったが、市職員としてすべき事が何なのか、実際に障がい者に接する際の注意点とか各課の事業でできることとか。(2)
- ある程度はできた。(2)
- 河野龍児さんから直接、不便なことを聞くことができ、今後、配慮しなくてはいけなと感じた。(1)
- 障がい者の生の声を聞き、日々、無関心になっていることを反省している。(1)
- 西村務さんの発言は分かりやすかった。小島明さんの話は説得力があり、よく理解できる。(1)
- 業務で関わる家族をイメージしながら、研修内容と照らし合わせることができた(1)
- やはり傾聴が大切なことだと思うし、常に心がけていきたいと思う。

3 研修会で学んだことを今後の職務にどのように取り入れますか。

- ・これまでは何をしてあげればよいのかと常に考えていたように思うが、今後は何をしてほしいのかということを考えていければと思う。
- ・職務の中で常に関わっている部分がある。安易に考えることなく、また不用意に言葉を使うことなく気をつけていきたい。
- ・仕事柄、障がい者と接することが多いものの、障がい者の立場になって深く考えたことがなかったと感じさせられた。特に障がい者の講話、支えの信条はとても参考になった。今後は、障害者の方の心に寄り添い、合理的配慮へとつなげたい。
- ・傘をさしかけるのではなく、共に濡れる気持ちを持って寄り添う。偏見をなくす。「合理的配慮に関するガイドライン」はとても参考になった。
- ・障がい者に対する対応・・・ただ逆差別にならないように！
- ・合理的配慮については学校内においても同じように取り組んでいかなければならないことを研修会で学んだ。準備することが当たり前・・・頭では理解できるが特別な配慮だと思ってしまう一面もある。施設において予算獲得できることが多いが、十分な対応が必要になってきている。
- ・日々の業務の中で色々な立場の方と接することがあるので、常に相手の立場に立って・・・とは思っているが、当事者の方や家族の方の苦しさ等に触れ、改めて、相手の思いをくんだ対応をしていく必要を感じた。後半の高次脳機能障害については、職場の中でも互いに配慮していくべきことがたくさんあったように思う。障がいのあるなしにかかわらず。
- ・部下に対しての声かけをする。何に困っているのか分からないと改善できない。うまくコミュニケーションをとって、風通しのよい職場をめざしたい。
- ・私達が日頃あたりまえに生活している中で障がいのある方は困難がどれほど多いのかと気づかされた。困りを少しでも解決できるように、まず聴き取ることからはじめ、相手を安心させ、コミュニケーションをとってほしいと思う。見えない障がいをもっと知り、今後役に立てていきたい。
- ・今後、合理的配慮を必要とする場面に立った時、一歩立ち止まって考え、一歩進んで手を差し伸べたい。

4 その他研修会全般について、ご意見があれば記入してください。

- 理念としては理解できた気はしますが、具体的にどうすれば良いのかが今ひとつ分からなかった。
 - プレゼン資料の中に気になる表現がいくつかある。「手近」 瀧口さんのページでの「～のため」
 - わざわざご本人や家族会の方がお話しされた訳なので、そのお話しを生かせる研修にさせていただくことを望む。（時間配分も含め）
 - 時間配分を適正にお願いしたい。
 - 障がいの内容と接し方については、せっかくなので、詳細を書いた資料にいただいた方が、今後業務に役に立たせることができたと思う。
 - 第3セクションは外部講師でなくても良かったかも。
- △ 施設の新築・改修時には関連する部署と連携を取り、協議を行う必要がある。
- △ 定期的に分野ごとに学べたらと思う。
- △ 障がいのある方に接する時、見かけたときにサポートしたい気持ちがあっても、アプローチの仕方が分からない人は多いと思う。失礼になってはいけないとか・・・その辺の事を具体的に知りたい。
- △ 例えば障がい者（車いす）の方が転倒した時、手を差し伸べるべきか、見て見ぬふりをするべきか。
- △ 市民を対象にした講演会等を行う。
- △ 繰り返し研修することが大切だと思う。
- △ 指導的立場にある係長級にも「ともに生きる条例」についての職員研修を行うべき。
- 全職員が理解することと思う。年度毎に順次ではなく、早急にされたら良いと思う。
 - 本条例の特性から、多くの障がいを知る必要があると考える。よって、今回の研修を繰り返し実施して、幅広い障がいの特性を勉強する必要があると考える。
 - 当事者の話を聞くことは有意義であるため、引き続き、研修を実施していただきたい。
 - 障がいを持つ当事者本人からの生の声を聞く機会を多く作ってほしい。
 - 当事者の方等のお話は、具体的でストレートに伝わってくるので、当事者の方々の経験談を聞く機会を設けてもらうのが良いと思った。
 - わずか15分間という時間だったが、担当職員の方の業務に関わる強い意志とそれを共有しようという「志」と感じた。
 - 大久保さんには体験してきた辛かったこと、嬉しかったこと、こんな手助けが必要等の具体的な話を聞きたかった。時間的に丁度良かった。
 - 実際に障がい者の方から研修を受けて、より身近な切実な問題、状況であると感じることができ、条例の必要性が理解できた。ただし、本当に相手の人が必要と感じるものを確認することが一番大事。また、物理的に出来ない場合の対応も併せて考えることの必要性の認識。
 - 障がいには色々な特性があるため、それぞれに対して行く方法、いかに理解してっていくことは、大変だと思う。だが、現代社会には多くなっている現状があるので、物理的配慮→合理的配慮（聞き取りが重要）へ考えを持って行かなければいけないと思えた。
 - 障がいのある方の話を聞いた（生の声）ことで、配慮と柔軟性が必要であると感じた。
 - 職場に今日研修で学んだ客がたくさん来るので今日学んだ対応でやりたい。
 - 障がい＝車いすのイメージが強いのだが、外見では分からない障がいにも気をつけていきたい。
 - 人的な支援を積極的にすすめていきたい。（人を増やすよりも質を高める方）